



学校教育目標

心豊かな子 (徳) 体をきたえる子 (体) 学び合う子 (知)

環境が花の色を変える

(子どもたちの望ましい成長を願って)

校長 星野 和久

木々の緑が日に日に濃くなり、アジサイの花の似合う季節となってきました。

子どもたちは毎日元気に学校に通い、活躍する姿から改めてさぎの森小の子どもたちはすごいなと感じることがたくさんあります。業間休みや昼休みに校庭から、子どもたちの元気に遊ぶ声が聞こえてきます。見ると高学年から低学年までほぼ全員が一緒になって遊んでいます。高学年の子どもたちは、低学年の子どもたちの面倒をよく見てくれています。子どもが大勢いた時代の子どもたちの遊びの風景を思い出します。この遊びの中で、人との関わり方や思いやりの心を自然と学んでくれているのだろうと感じています。



先日、来校した方から「話を聞く姿勢や授業の態度が立派ですね。発表もみんな手を挙げて積極的な所が素晴らしいですよ!」とお褒めの言葉をいただきました。素直で誠実な心をもったさぎの森小の子どもたちが、これからものびのびと成長してくれるものと思っています。

冒頭でも触れましたアジサイの花は、同じ品種でも土の環境(酸度)によって花の色が変わってきます。これは、アジサイに含まれる色素が土から吸収した栄養素に反応して色が決まるからです。一般的に、土の環境がアルカリ性であるとピンク色の花、酸性であると青色の花が咲くようです。ちなみに、白花系のアジサイはもともと色素を持たない品種なので、土の酸性やアルカリ性には影響されません。

私たちの生活の中でも環境の要因で成長は大きく変わります。さぎの森小の子どもたちには、優しく思いやりのある子に育ててほしいと願っています。さぎの森小は毎朝、どの学年の子どももあいさつが当たり前でできる雰囲気できています。また、丁寧な言葉遣いを心がけるとともに、思ったことを自由に表現できる教室の雰囲気、子どもたち同士を認め合える教室環境をつくっていかうと先生たちは日々心掛けています。温かみのある教室で子どもたちの優しさが、さらに色づいていくことを楽しみしています。

<あいさつのできる子どもたちの育成>

先日のお話朝会で、あいさつについて話をしました。まず、どんなあいさつをすればよいかについては、「おはよう あ・さ・ご・は・ん」を合言葉に「おはよう、ありがとう、さようなら、ごめんなさい、はい、こんにちは」のように朝ご飯をしっかり食べてほしいという願いも込めて紹介しました。また、あいさつの仕方については、「あいての目を見て、いつでも、さきに、つづけよう」という話をしました。

登下校などで見守ってくださる地域の皆様からもさぎの森小学校の子どもたちはあいさつがよくできると言われました。気持ちのよいあいさつができる子どもたちが育っていることは大変嬉しいことです。

あいさつをすることは、子どもたちが、これから大人になって活躍する際、たくさんの人とかかわりをもつ上で、とても大切なことです。いろいろな人とかかわりをもつには、自分から心を開くことが大切です。そして、そのはじまりが、まず、あいさつをすることだと思います。

あいさつの指導は、学校全体として、これからも継続的に行うようにしたいと考えています。ぜひ、ご家庭や地域でも「おはよう」、「いってらっしゃい」、「こんにちは」というお声かけをいただければ幸いです。